

# 放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

## 回答率

事業所職員： 4名回答、回答率 100%  
保護者様： 23名回答、回答率 82 %

## 職員の意見

### ○環境・体制整備

- ・部屋の区切りを利用してクールダウンの場所や静養場所などを設けたり、専門的支援と集団活動の場所を分けたりすることで取り組みをわかりやすくし、行動の切り替えにつなげている。
- ・子どもの特性に応じてスケジュールやルールの視覚化を図り、生活空間の構造化を図っていきたい。

### ○業務改善

- ・定期的に業務分担の見直しと進捗確認を行い、業務改善につなげている。

### ○適切な支援の提供

- ・児童の気になる様子については日々のやり取りで確認しているが、個別支援計画作成時にもう少し時間をかけて担当者会議を行っていききたい。
- ・活動プログラムは、業務前MTGにて具体的な実施手順を確認し、利用者の特性に合わせて都度修正を加えている。
- ・支援終了後に打ち合わせの時間をとることが難しいが、内容に応じて翌日の業務前MTGで振り返りを行っている。
- ・絵カードなどを用いて利用者本人の意思表示ができるように配慮している。

### ○関係機関や保護者との連携

- ・学校などの関係機関と連携する機会を増やしていききたい。
- ・利用開始の際、同じ法人内では移行に向けて情報共有等の連携に努めているが、他事業所とは連携があまり行っていない。
- ・放デイから障害福祉サービスへの移行の際、保護者への情報提供にとどまっていることが多いため、事業所間での情報共有も行っていけるとよい。

### ○保護者への説明責任等

- ・ニュースレターを通じて、教室の様子を発信を行っている。
- ・日本語が苦手な外国籍の方との連絡手段を、もっと分かりやすい形に工夫していききたい。

### ○非常時等の対応

- ・ヒヤリハットについて口頭での共有はされているが、報告書作成が漏れることがあるため、報告書としての記録を丁寧に残していききたい。

## 保護者様のご意見

### ○環境・体制整備

・生活空間は心地よく過ごせる空間になっているかという質問について、「はい」との回答が8割以上であり、実際に見学して満足して入所したとの意見をいただいた。

### ○適切な支援の提供

・子どもと保護者のニーズや課題に応じた個別支援計画が作成されているかという質問について、9割以上の方に「はい」との回答をいただき、個別支援計画や支援内容には満足いただけていることがうかがえた。

### ○保護者への説明等

・日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、共通理解ができているかの質問に関しては、8割以上の方から「はい」との回答をいただいた。

・事業所の職員から共感的に支援されていると思うかの質問について、8割以上の方から「はい」との回答をいただいた。

### ○非常時等の対応

・安全の確保が十分に行われた上で支援が行われているかという質問し、8割以上の方から「はい」との回答をいただいた。

・一方でマニュアルの周知についての項目では、「説明は聞いたけれど訓練を見たことはない」とのご意見もいただき、ニュースレターなどを通じて実際の様子を見ていただく機会を増やす必要性が考えられた。

### ○満足度

・子どもは安心感をもって通所していますかという質問について、9割以上の方に「はい」との回答をいただき、満足度は高いことがうかがえた。

## 昨年度の振り返り

### ○今年度の取り組む具体策

・保護者会を年1～2回実施し、保護者への日々の様子や非常時対応について周知していくとともに、保護者間での交流の機会を提供していく。

・地域の就労移行支援事業所や就労継続支援B型事業所と連絡を取り、長期休みに見学会の実施を行っていく。

・非常時対応について、マニュアルの見直しや新規職員を連れての避難経路確認などを行い、大規模災害に備えていく。

### ○改善できた点・まだ残る課題

・保護者会を実施することができ、保護者への情報提供や保護者間での交流の機会を作ることができた。今後も定期的にも実施し、継続的な情報提供の場や交流の機会としていきたい。

・非常時対応について、毎月避難訓練を実施し、新規職員も含めた避難経路確認を行うことができた。

## アンケート結果からみる教室の強み・改善点

### ○教室の強み

- ・児童の特性に合わせて相談室や静養室などを活用し、行動の切り替えに合わせて場所を移動したり、クールダウンの場所とするなど、場所ごとに役割を決めて居心地の良い空間づくりに役立っている。
- ・個別支援計画に基づいて個別課題の充実を図り、生徒の興味関心や特性に合わせた支援を提案し、実践することができている。
- ・送迎時や電話、連絡帳などのやりとりを通じて保護者と子どもの状況について共通認識をもちながら支援を行うことができている。
- ・更新面談の際は丁寧に現状の課題を確認することで、ニーズに沿った計画を作成できるよう努めている。

### ○改善点

- ・家族支援は進めることができているが、学校など関係機関との連携はあまりとれていないため、情報共有などの連携がとれるような連絡体制をつくれるとよい。
- ・卒業後の進路に関する連携や支援が少なく、保護者への情報提供のみに留まっており、連携の機会を設けていきたい。
- ・非常時対応について、避難訓練の様子などの周知が十分ではないため、ニュースレターを通じて周知を進めていきたい。
- ・日本語が苦手なご家庭とのやり取りにおいて、送迎時に直接確認するなどの工夫はしているが、より明確に伝えられるような伝達手段の工夫を検討していきたい。

## 中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

### ○中長期的な改善計画

- ・ニュースレターの内容について充実を図り、活動時の写真などを盛り込むことで教室内の様子をよりわかりやすく伝えていく。
- ・保護者会を定期的実施し、教室からの情報提供の場とするだけでなく保護者間の交流の場としても活用していただくことで、より安心して通っていただける事業所とする。
- ・学校や他事業所との連携を図り、支援の統一や切れ目ない支援を目指す。
- ・卒業後、進路として選ばれる可能性のある地域の福祉サービス事業所などをつながりを持ち、利用者への情報発信や移行支援につなげていく。

### ○1年間で取り組む具体策

- ・進路に関する資料を制作し、生徒や保護者への情報提供が出来る様にする。
- ・ニュースレターに定期的に活動時の写真などを盛り込むことで内容の充実を図り、避難訓練などの教室の様子を知っていただく機会を増やす。
- ・保護者会を年1～2回実施し、日々の様子や非常時対応について周知していくとともに、保護者間での交流の機会を提供していく。
- ・お便りやメールなどを通じて緊急時の対応(避難先や連絡先)をお知らせし、周知に努める。

スマートキッズ